

審議会の公開について当審議会(平成21年12月11日実施)で審議したところ、「奈良県農業総合センター研究第三者評価会議は審議内容に知的財産に関する事項を含み、公開により新規性、進歩性が喪失する恐れがあるため「審議会等の会議の公開に関する指針」「イ⑤-c」(特定の者に不当に利益を与え、または不利益を及ぼすおそれがあるもの)に該当し、非公開とすることがのぞましい。」と決定されました。このため、評価結果の概要のみを公表します。

## 平成21年度 農業総合センター研究第三者評価会議 評価結果

平成21年12月11日奈良県農業総合センター研究第三者評価会議が当センター内農業交流館で開催されました。これは、研究活動の公正かつ適切な評価により、効果的な研究・技術開発を推進する目的で平成18年度から導入したものです。その結果の概要をお知らせします。評価会議は農業に関する有識者・専門家、農業者・消費者の代表等、知事から委嘱を受けた5名の評価委員をもって構成しています。

### 評価対象課題について

- (1) 事前評価課題 次年度新規に実施予定の研究課題 (23課題)。
  - (2) 中間評価課題 現在実施している研究課題 (51課題)。
  - (3) 事後評価課題 普及に移した研究課題の内、概ね3年を経過した課題 (51課題)。
- これらの課題の内、第三者評価会議での対象課題は、センター研究監理委員会によって選出された、以下の5課題を対象としました。

### ～評価委員による各課題の総合評価と主なコメント～

#### 1. 総合評価

- ・評価対象5課題は遺伝子の話から野菜の調理特性までその研究内容(テーマ)が幅広い。
- ・研究成果の活用場面として従来は、生産者を対象としていたものが、多かったが、今回は、生産者を考慮しながら消費者をも対象とする研究もあり、非常に応用範囲が広い。
- ・どの研究課題においても、目的・問題点が明確にされている。
- ・事後評価課題においても、発展性があり、事前評価課題・中間評価課題もその成果が期待される。
- ・充実した研究が行われている。

#### 2. 各研究課題の評価

評価 3:達成(非常によい、大いにある)、2:ほぼ達成(よい、ある)、1:達成不十分(よくない、乏しい)

#### [事前評価]

##### (1)カキ幼苗接ぎ木を用いた極密植施設栽培方法の開発

評価基準	評価	評価委員の意見
(1)研究の必要性・ニーズ(生産者・実需者・消費者・行政課題)	3	実用化に向けた研究を推進すべきであり、現場は一刻も早くこの技術が実現されるのを待っている。高齢化・新規就農者・効率化等生産者のニーズに応えるとともに、消費者の嗜好の変化にも対応可能な課題である。必要性は高い。果樹の中でも比較的粗放栽培のカキを野菜的な集約栽培に転換する発想はおもしろい。
(2)研究方法の妥当性	3	これまで開発された接ぎ木技術や大苗育苗方法を生かした発展的な研究である。幼苗接ぎ木苗の用途開発になる。
(3)研究推進体制	2	栽培や生育に関する研究だけでなくその利用面についての可能性も探って欲しい。研究体制として野菜の育苗会社等と共同で研究できるのではないか。共同研究のすすめ方等さらに具体化してほしい。現時点で共同研究機関が調整中では遅いと思われる。
(4)研究の独創性・新規性	3	野菜苗感覚の接ぎ木は、考えもつかない発想である。カキでは新規性が高い。カキ生産を総合的に支援する技術を確立する内容だと考えられる。
(5)学術的寄与・発展の見込み	2	この研究により、ハウス柿栽培には今後、大きなハウスは必要なくなるだろう。他作物での研究蓄積があり、利用発展が見込める。
総合評価(課題の妥当性)	3	カキの新たな施設栽培法の導入だけでなく、園芸療法などへの利用も可能で、多方面での活用が期待できる。何年もかかっていた柿苗の育苗が野菜苗感覚でできるようになる技術である。これまで開発されてきた技術を生かし、将来必要な技術・手法の確立を目指している点が評価できる。現在のカキ産地に限らず広範な地域への普及が見込める。新規就農者や高齢化した栽培農家が省力で早期収穫することが可能であり、早く結果が出て普及することを期待したい。

## [中間評価]

## (2) フロリゲンの直接導入による開花・生長調節技術の創出

評価基準	評価	評価委員の意見
(1) 研究計画の進捗状況	3	研究はキクで挑戦しながら、成果を実用化して出すためには適材の作物・品種・系統の選定が必要かと思われる。
(2) 研究成果の波及見込み(生産者・実需者・消費者・行政課題)	3	実用化には難関があるが、何れかの作物で成功すればその価値は大きい。
(3) 学術的寄与・発展の見込み	3	全く未知の世界で、成果の全てについて新規性・学術価値が高い。
総合評価(目標達成度)	2	研究内容は難解だが、資源のない日本ではこのような研究で世界をリードして欲しい。十分な成果を得るにはもっと長い期間が必要と思われる。実証を積み重ね、着実に研究が進められている。今後の方向性も明確である。最先端技術の実用化への橋渡しは一筋縄ではいかない事があると思う。”平成の花咲爺さん”に期待。花の計画出荷が可能となり農家にとって有利販売ができる技術であるので、色々な作物でも実験して欲しい。

## [中間評価]

## (3) 農業の持つ環境保全機能および環境影響調査(農産物の安全性の確認と確保)

評価基準	評価	評価委員の意見
(1) 研究計画の進捗状況	2	安全性のモニタリングには経費、人の制限要因があるなかで、全体的にはまとまって研究がなされている。
(2) 研究成果の波及見込み(生産者・実需者・消費者・行政課題)	3	生産者・消費者にとって切実な課題であり、低コストで普及効果のある研究成果が望まれる。農薬残留低減は生産者にも消費者にも重要な課題であり、このような技術ニーズは高い。今後も継続的な取り組みをして欲しい。安全性の確認データはどのように伝えるのか。特に基準値オーバー時にはどう対応するのかという点も伝えて欲しい。
(3) 学術的寄与・発展の見込み	2	特に、新規性はないが、安心・安全の事業的な色彩が強い。
総合評価(目標達成度)	2	より実用化を目指した研究を進めて欲しい。生産者が作物を生産する過程で一番注意するところであり、引き続き研究をして欲しい。生産者が実際に利用しやすいより簡易な方法で、コストの低い技術の開発をすすめてほしい。安全志向が高まる中、安価で検査が可能なもの、またドリフト防止ネットも更に省力で安価なものを開発して欲しい。ドリフト防止技術については、いかに普及させるか、安全性モニタリングは検定点数に限界があり、保健環境研究センターとの連携が必要に思う。

## [事後評価]

## (4) サトイモ・ナスの調理特性の品種・系統間差

評価基準	評価	評価委員の意見
(1) 研究成果の内容	3	栽培とは異なる視点での品種・系統間の違いを見ており、興味ある成果が得られている。今回はサトイモとナスであったが、奈良が開発した野菜として、色々な品種が特産物になればよい。品種・系統に調理方法を加えたうえで食味の関係をデータで把握しており、おいしさを科学的に明らかにする内容として注目される。
(2) 研究成果の波及・実用化の状況 (生産者・実需者・消費者・行政課題)	3	よりおいしいものを求める傾向に応える内容である。市場への情報提供とともに品種改良へつなげてほしい。生産者から消費者までをつなぐ、これまでになかった研究である。PR・伝達を継続することが必要。
(3) 学術的寄与度・発展度	2	調理加工を加えた食味特性の評価には新規性がある。
(4) 成果の公表、特許・種苗登録の可能性	2	調理のしやすさに着目した品種改良を行い、新品種の登録をして欲しい。加工業者、飲食店、消費者への積極的な情報提供を。将来料理レシピに品種・系統名が記載されることを望む。
総合評価（目標達成度）	2	最近野菜を電子レンジで簡単に早く調理できてしかもおいしい品が好まれるようである。調理特性は将来の野菜の品種改良において必要なファクターとなる分野で、更なる品種改良、品種を増やして研究して欲しい。電子レンジ調理でおいしい野菜品種の改良や従来品種でも、どのように電子レンジ調理するとおいしいか等研究を発展させてほしい。特性を更に研究し、それを活かした料理方法も研究し、特産品の普及に貢献して欲しい。味間芋を特産化、産地化するためには、種芋の供給体制が必要か。

## [事後評価]

## (5) キクのおオタバコガ防除のための簡易な露地ネット被覆法

評価基準	評価	評価委員の意見
(1) 研究成果の内容	3	一石三鳥ぐらいの成果がある。試作を重ね、完成度を高めている。生産者からも評価高く研究目標が達成されている。花は食害されると致命的な実被害となるので完璧な防止策が求められる。本ネットはその要求に適合している。
(2) 研究成果の波及・実用化の状況 (生産者・実需者・消費者・行政課題)	3	環境にやさしい技術である。着実に普及が進んでいる。生産者のニーズ(コスト負担)にきめ細かく対応している点がすばらしい。簡易・低コストネットの普及率を高めるための工夫・解説資料が必要。
(3) 学術的寄与度・発展度	2	例えばフェロモン剤の併用等でより高い効果が出ないのかさらなる研究発展を。ネット被覆自体には、新規性がないが、低コスト、作業の簡便さに工夫がみられる。
(4) 成果の公表、特許・種苗登録の可能性	2	成果がはっきり出ている。38万円/10aは高いと感じたが、普及面積をみると、生産者の許容できる出費のようである。
総合評価（目標達成度）	3	目標が達成され着実に普及している。オオタバコガを対象とした研究成果が得られているが、コストや風に対する問題点が残されている。更に研究し、安価で、強度なネット開発をお願いしたい。研究過程で発見された課題を更に追求し完成度を高めてほしい。一部、微小害虫、ダニ、アブラムシ対策がいるが、オオタバコガ対象の薬剤の減少と天敵保護によって害虫発生が抑制されるようなので、総合防除が期待できる。